

# ■通学路をもっと安全に、もっと楽しくしてみよう “毎日学校に行きたくなる”通学路ガーデン化プロジェクト(Step2)

## 1:基本情報

### ①主催者

千代田区立富士見小学校地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)  
坂口次郎、加藤由佳、小林加乃、飯田圭

### ②実施場所(エリア)

富士見小学校前の早稲田通り(通学路)、小学校敷地内広場及びプレイルーム

### ③企画から実施までの活動の流れ(活動に必要な申請書関係含む)

#### 【企画検討】

2025年4月～5月:公募提案に向けた企画検討(前年度の振り返りをもとに今年度のゴールイメージ)

同6月～7月:採択後の企画検討(合意形成方針、関連行政協議方針、全体スケジュール等)

#### 【準備】

2025年6月:富士見小環境委員会にて企画の説明(第1回WS)

同7月:富士見小環境委員会にて路面標示デザイン案検討(第2回WS)

同7月:千代田区景観・都市計画課との第1回打合せ【打合せ内容:企画の実現性(特に路面標示材設置に係る安全性について)、新規性、継続性、実施スケジュール、課題感等の共有】

同7月:社会実験調査方法等について日本女子大薬袋研究室と第1回打合せ

同9月:千代田区景観・都市計画課との第2回打合せ【打合せ内容:警察協議、道路占用許可等手続き確認】

同9月9日:富士見小環境委員会にて学校内広場床標示案、広報チラシ案検討(第3回WS)

同9月18日:警察署との第1回打ち合わせ【打合せ内容:路面標示材の仕様確認、設置箇所・期間、設置の条件等】

同10月6日:千代田区環境まちづくり総務課占用係との第1回打合せ【打合せ内容:路面標示材の設置箇所・期間、管理体制等】

同10月6日:富士見小環境委員会にて学校内広場床標示作成(第4回WS)

同10月7日:警察署との第2回打合せ【打合せ内容:路面標示箇所・期間の確認、安全対策の確認】

同10月7日:道路使用許可申請書提出(麹町警察)

同10月23日:屋外広告物表示・設置届提出

同9月8日～10月6日:広報の作成

同9月25日～10月15日:備品発注(路面標示材、ワークショップブース関連)

同10月10日:広報、近隣説明開始

#### 【活動実施】

2025年10月11日～12日:路面標示設置実施

同10月25日:ワークショップ、防災スタンプラリー、座談会実施

同10月28日:体育学習発表会にて地域メッセージのぼり旗設置

同11月1日:路面標示材撤去

同10月11日～11月30日:QRコードによるアンケート調査、富士見小児童へのアンケート調査

同10月8日～11月10日:動画撮影による車の速度調査

#### ④活動の内容

【目的】通学路となっている早稲田通りの通学時間帯の歩行者専用化を目指し、昨年度に引き続き(Step2)として実証実験を行った。

【実活動内容】①仮設路面標示設置による車の速度低減効果検証及びアンケート等調査、②座談会等による地域の意見交換及びワークショップによる学校を核とした地域コミュニティづくり、③小学校の体育学習発表会にあわせた地域からのメッセージ入りのぼり旗設置

路面標示材設置状況(仮設シートをハンマーで圧着)



路面標示設置①(富士見小学校前)10/12(日)

路面標示材設置状況(同左)10/12(日)-13(月)実施



路面標示設置②(日本歯科大学前)10/13(月)



イベントチラシ(左)と実証実験説明チラシ(右)



早稲田通り通学時歩行者専用化に関する座談会  
10/25(土)実施



学校周辺施設をめぐる防災スタンプラリー 10/25(土)



手形アートワークショップ 10/25(土)



ハロウィンかざりづくりワークショップ 10/25(土)



ひばチップにおい袋づくりワークショップ 10/25(土)



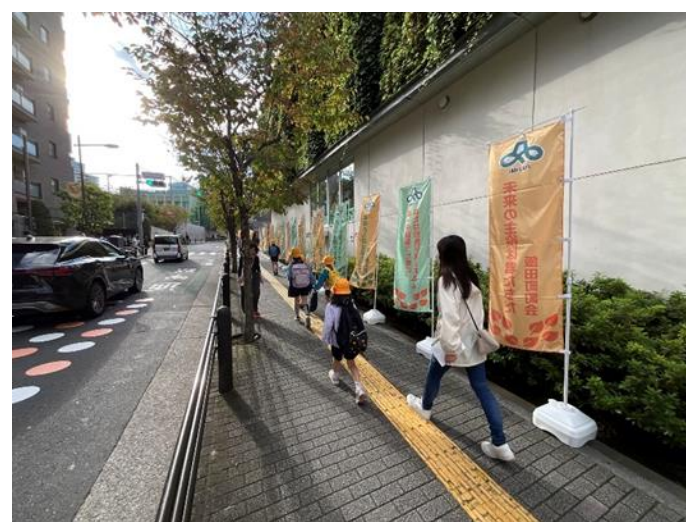
地域からのメッセージ入りのぼり旗(体育学習発表会)

10/28(火)実施※雨天により体育学習発表会は延期実施した



路面標示材とのぼり旗(体育学習発表会)

10/28(火)実施※雨天により体育学習発表会は延期実施した



## 2:活動の実施の仕方

### ①活動の実施体制

#### 【主催】

・千代田区立富士見小学校地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)

#### 【協力】

・日本女子大学建築デザイン学部葉袋研究室:路面標示デザイン及び設置、アンケート及び動画調査分析

・富士見小学校環境委員会:路面標示デザイン(色彩)検討協力

・富士見小学校 PTA 及びおやじの会:イベントワークショップ運営ボランティア

・麴町消防少年団:小学校周辺の防災施設をめぐるスタンプラリー(イベントワークショップ)

・ひば工房:ひばチップにおい袋づくりワークショップ(イベントワークショップ)

・大妻女子大学人間生活文化研究所:研究員(主催者・坂口)への研究費助成

### ②活動の収支状況

#### 【収入合計:40万円】

・千代田区活動支援金:30万円

・大妻女子大学人間生活文化研究所研究助成金:10万円

#### 【支出合計:40万円】

・路面標示材関連材料費:28万円

・イベントワークショップ関連費:9.2万円

・道路使用許可申請料:0.8万円

・各種調査協力謝礼品:2万円

### ③広報活動の内容

・町会の掲示版へのポスターの貼り付け

・富士見小学校保護者向けメール連絡(すぐる)での周知

## 3:今後の活動の展望

### ①今回の活動を通じて実現した「地域課題の解決」、「新たな価値の創造」

#### ◆地域課題の解決

#### (1)地域の通学路空間としての再認識

富士見地区のほぼ中央を通る早稲田通りは、通学路指定はあるものの、周辺には学校等が集積しているため歩道が混雑状態となっている。特に朝の通学時間帯は東京駅方面への通過車両も多く、警視庁が定めるゾーン 30 区域の認識も薄い(今回のアンケート調査の結果、ドライバーの 50%、歩行者の 58%が認識なし)。今回、着色した円形の仮設路面標示材シート(1 か所 75 枚×2か所:富士見小前、日本歯科大前)を約 20 日(10/11(土)～11/1(土))設置し、多くの子どもたちが通う通学路空間としての雰囲気づくりを試みた。アンケートの結果、道路が明るいと感じた(97%)、親しみやすいと感じた(91%)、道路の周辺に注意深くなった(84%)となり、車中心ではなく子どもたちが通う通学路としての PR ができた。また、道路の雰囲気を変える試みに対しては、歩行者の 95%、ドライバーの83%が賛同し、多くの支持を得たと考えている。

#### (2)通過車両へのメッセージと減速効果

新たに着色した路面標示材を一定期間設置したことにより、ドライバーに対し当地区がスクールゾーンであり車だけの空間ではないというメッセージを発信できたと思われる。路面標示材の設置前(平日2日)、設置中(5日)、

撤去後(平日2日)に朝の通学時間(7:30~8:30)の早稲田通り(富士見小前)の車両速度を計測した結果、平均値、最高・最低速度、中央値に大きな差は見られなかったが、最頻値においては設置中(32km/h)と設置前後(37km/h)の速度に5km/hの差があることが分かり、路面標示の減速効果が伺える結果となった。

### (3)地域との意見交換

将来的な早稲田通りの通学時間帯の歩行者専用化をテーマにした座談会を開催し(10/25(土))、地元町会関連、近隣住人、事業所等の方々18名が参加し意見交換を行った。新たな路面標示の試みは好意的に捉えつつも、歩行者専用化に関しては、①近隣店舗、沿道マンション居住者等への影響、②1時間ではなく30分から始めるべき、③子ども利用だけでなく交通量の少ない休日昼間も近隣店舗等がお店を出せるような試みも活性化につながるのでは、等の意見が出た。立場の異なる方々が集まり当該テーマに関する初めての意見交換会となり、建設的な意見や課題感も共有され有意義な場となった。

### ◆新たな価値の創造

#### (1)通過道路において通学路としての雰囲気づくり

早稲田通りはこれまで長い間、午前中は一方通行ということもあり東京駅方面に効率的に向かう通勤等の車両が中心となり機能してきた(約160台/h)。一方富士見地区は学校等が集積する文教地区であり毎朝1,500~2,000人規模の子どもたちが一斉に通学する。また富士見小では3年前から特別支援教室が新設され毎年人数が増加しており、通学に何らかの支援が必要な子どもたちの数は増加傾向にある。

これまでの車中心の道路空間に、地区に通う子どもたちが安心安全で楽しんで通学できる子ども優先の時間帯を設けることを念頭に、今回その兆しとなる通学路としての雰囲気づくりの実証実験を行った。学校が多く立地する中の早稲田通りが車中心の空間でなく、桁違いの数の子どもたちが通う子どもたち中心の通りへ新たな価値感を挿入できるきっかけづくりとなったと思われる。

#### (2)子どもたちが関わることによる自分事への視点の獲得

今回の路面標示の配置や配色案をつくるにあたり、富士見小学校5,6年生で構成される環境委員会で6月~9月の委員会(月1回開催)でアイデア出しやワークショップを行った。その中で視覚弱者のための色彩範囲の制限や自転車通行のための配置の制限等を学んだ。大人から与えられるだけでなく地域課題に対し自ら関わることで自分事となり、地域社会と接する視点を獲得するきっかけになったと思われる。路面標示の設置撤去作業等には更に現場にて安全確保等のハードルが伴うが、今後継続する中で子どもたちが関われる機会を増やしたい。

#### (3)地域の特徴を活かすオリジナリティあるまちづくり

富士見地区は富士見小、こども園以外にも小中高一貫の私立校2校、中高一貫の公立私立校2校が集積する文教地区であり、地域の特徴となっている。今回採用した路面標示材シートの配色には、一般的な標識で多く採用されている緑系ではなく薄いオレンジと白のパターンを採用した。白の清潔さと共に通学する子どもたちが明るく楽しさを感じられることを意図した。子どもたちが明るく楽しい気持ちで通学することによって地域の高揚感にもつながることが期待できる。このように地域の特徴を引き出しながらオリジナリティあるまちづくりが今後も展開されれば賑わいや活性化にもつながるものと思われる。

#### (4)住民主体による地域づくり

一連の当該取組みは、私たち地域に住む住民からの発想と小さな行動からスタートした。これは、これまで多くあった行政や大手民間事業者等による都市開発事業ではなく住民が主体となつての地域づくりである。自らの手で自分のまちをつくる試みであり、それを行政が支援する役割分担にもなっている。規模は小さいものの新しいまちづくりの手法と位置付けられるものと考えている。

#### (5)実証実験を重ねるプロセスデザイン

長期にわたり綿密な計画を立てて進める手法ではなく、一歩ずつ実証実験を重ねながらゴールを目指す手法を取っている(制度上そうなってしまう側面はあるが)。昨年度のStep1では早稲田通り隣接道路を落書き広場等として活用し、今年度は早稲田通りに着色したシートを配置した。実証実験を重ねることで縁遠かった車の

ための道路が少しずつ地域の空間になる姿を見ることができ、地域に沿った道路の柔軟な使い方を実感することができた。当該取り組みにより多様な立場の人々が関係する取り組みでは、ゴールイメージの共有や合意形成を図るために実証実験を重ねていくプロセスに妥当性があると思われ、またそのプロセスにおいてコミュニティの強化も期待できる。

## ②活動を進める上での課題や苦勞したこと

### (1)地域との合意形成

説明したつもりになっていた場合でも、後からあいまいになってしまったところがあり、改めて合意形成は丁寧な説明が必要と感じた。次回以降は企画側に入っていただくことも考えたい。

### (2)路面標示材の規模と場所に制限

今回の路面標示は当初3カ所に分散して設置する予定だったが、道路や安全管理の側面から傾斜地や道路側面1.5mの設置が制限された。その結果、設置可能箇所は2カ所となり、シート配置の位置についても中央部分のみに限定した。

### (3)コンセプトや意図の伝達

路面標示のコンセプトや意図を説明するため、歩道等に掲示などをしたかったが、ガードレールや街路樹への掲示は制限されており、団体としてのHP等もなかったため、それらの周知に苦心した。結果的に小学校に協力を得て小学校壁面に掲示はできたが、アンケートの回収結果に影響したと思われる。

## ③:①や②を踏まえた今後の活動に向けた方針

### (1)地元町会、店舗等と連携した実証実験

地域の交通ルールを変える場合、影響を受ける地元地域の合意形成が欠かせない。また、今回実施した座談会での意見でもあったが、休日の早稲田通りでの飲食等の可能性等も含め、エリアマネジメントの発想で取り組む視点が求められる。合意形成に向け、今後も町会等と連絡、連携を密に図りながら実証実験を重ねていく必要がある。

### (2)周辺学校との連携

子どもが地域課題を自分事として捉え、関わることで地域の視点を獲得できるよう、富士見小だけでなく周辺学校とも連携を図り、より多くの子どもたちが関わり自分たちの通学路環境を向上する仕組みを検討したい。そのことで当地区に通う子どもたちが“毎日学校に行きたくなる”通学路づくりの実感につながると思われる。

### (3)通過ドライバーへの意図周知、ヒアリング

今回、早稲田通りを通過するドライバーへのコンセプトや意図の周知に苦心した。何らかの方法により直接ドライバーの声を聞くことができ、我々の意図を伝えられればより効果的な実証実験の方法が選択できる可能性がある。今回の振り返りを含め引き続き検討していきたい。

### (4)発信力の向上

組織ではなく個人グループによる取り組みで組織HP等を持たないため、(3)の意図周知や今回の成果の発信等には限界がある。今後幅広く意見徴収し賛同者を募り実施した効果を広く発信していけるよう、WEB上などでの発信するツールを獲得するなど、発信力向上につなげていきたい。

### (5)ステップを踏むため継続的な資金確保

今回の取り組みはStep2と位置付けているが、まだ道半ばである。今後も継続して実証実験等を重ねていくために継続的な資金の運用を考えていく必要がある。

### (6)長期的な視点での地域全体の交通システム検討

早稲田通りを含む富士見地区は一方通行や通学時間帯の歩行者専用の規制等が複雑な区域となっている。朝の通学時間帯の歩行者専用化を現状の規制に単純に上乘せするだけでは根本的な交通問題の解決が困難な側面もあるため、長期的な視点かつ広い視野で地域や警察等の関係者と調整を重ねていく必要がある。